

川端富夫、松井弘樹、角田祐子、安原和宏 班

1. 団体活動をめぐる課題等の発表から、特に印象に残ったこと  
気づいたこと

- ・沼田市民児協の今後（近年、地域福祉課題が多様化。子ども・若者から高齢者まで、世代が幅広い。もっと活動しやすく。なり手がいない。）
- ・自分が一生懸命取り組んでいたことを後継者に自信を持って説明できない（苦労が多い割に）
- ・人数が減っている。なり手不足。マイナスイメージ。
- ・なり手不足

2. 地域コミュニティ、各種団体の現状・・・

想定される影響は何か  
地域（住民）として、困ること  
できなくなること  
あればこそできること

- ・老人会
- ・スポーツ団体、体育協会（少子化で人手不足）
- ・体育協会（地域にいる人の顔が見えない）
- ・消防団（経験者は余るほどいるが、年齢の縛りで退職、まだ使える）
- ・消防団（後継者、人選のタマが見つからない）
- ・消防団の人数が減ったら有事の時に大変
- ・民生委員児童委員（一人暮らしの高齢者や引きこもりの方の確認手段がなくなる）
- ・民生委員は人数が多すぎるのかと思いましたが、各地区の住民にすれば顔が近い人が来てくれれば、安心のような気がしました。
- ・育成会（子どもが少なくなり、十分な活動が出来ない）
- ・青年団がなくなったことにより、盆踊り等で行政が大変な気がする。
- ・婦人会がなくなったら地区の活気がなくなった
- ・文化協会（高齢化の進展、役員不足、なり手不足）
- ・神楽保存会（伝統の消滅）
- ・お囃子の保存会、山車の運行、伝統文化の継承
- ・自治会、町・区（見守りから祭りまで）
- ・生き生きサロンがなくなるとお年寄りの集まりの場が減る
- ・集まりの場がなくなり近所とのつながりが薄くなった感じ
- ・隣に誰がいるのかわからない人もいる

3. 地域コミュニティ、各種団体の現状に対して

どのような対策・工夫がありうるか

各種団体の課題を乗り越える

できなくなることを改善するために

その他

- ・見守り隊(ボランティア)
- ・応援隊(有償)
- ・コロナの中にあってもコミュニケーションをとること、応援体制
- ・顔を見て話をする
- ・課題があった場合の解決策を一人一人に聞くこと
- ・情報化の拡充、ITの活用、コミュニケーションツール
- ・行政の情報公開(無理だけど・・・)
- ・消防団(体験教室)
- ・民生児童委員のサポート体制がほしい
- ・お祭りの日程変更(8月3日、4日、5日にこだわらない。土・日開催)
- ・コロナ前に戻す、コロナをなくす
- ・合同(他町と)で実施
- ・元気なお年寄りを頼る

倉澤由之、角田真由美、齋藤照恵、星野盾 班

1. 団体活動をめぐる課題等の発表から、特に印象に残ったこと  
気づいたこと

- ・若い人がグループに属したがない。消防団の体験から。スポーツクラブも。
- ・人員不足
- ・個人情報。なり手不足。
- ・声をかけて良いか？嫌がる人もいる。

2. 地域コミュニティ、各種団体の現状・・・

想定される影響は何か  
地域（住民）として、困ること  
できなくなること  
あればこそできること

- ・セーフティネット
- ・民生委員、社協
- ・婦人会（女性委員）
- ・育成会となくなると、子ども野外活動を親が出来ず、一切子ども体験させられなくなる。
- ・育成会、PTA なくなると、子どもが親子だけの関係の中で育つことに（子どもの逃げ場なくなる）。
- ・子ども会、青少推、小中学校役員
- ・消防団がなくなると、災害初動対応が難しくなる。
- ・消防団なくなると、常備消防が機能しなくなる（残火処理のため出動態勢入れない）。
- ・スポーツクラブがなくなると、子どもがスポーツしづらくなる。
- ・自治会がなくなると、町の環境維持が困難になる。
- ・祭りの会がなくなると、近所のその先のコミュニティの付き合いがなくなる。
- ・地域コミュニティがなくなると、簡水の維持が厳しくなる。
- ・人と人とのつながりが希薄になってしまう。
- ・人が寄り合う場（お茶のみ）
- ・人間関係がギクシャク。自分本位の人が増える。
- ・助けが必要になったときの相談先がわからない。
- ・入会する人が少ない。

3. 地域コミュニティ、各種団体の現状に対して

どのような対策・工夫がありうるか

各種団体の課題を乗り越える

できなくなることを改善するために

その他

- ・親子で参加する
- ・子どもを地域で育てる。意識をもつ。
- ・学生を使う
- ・ボランティアを集める。
- ・趣味の団体にボランティアを兼ねてもらおう。
- ・相談役にリタイヤ組を。
- ・女性を大切にする。
- ・若い人を年の大きな人が押さえつけない。
- ・コミセンや図書館でコミュニティのきっかけづくりをする。
- ・サロンの居場所をつくる。
- ・話し合う
- ・細かいことをぐちゃぐちゃ言わない。ゆるく。
- ・楽しいことをする。
- ・地域(町)での行事を広げていく。
- ・コミュニティが扱うことを区分けする。
- ・行政に任せることは任せる。
- ・お金で解決できることはお金で解決する。
- ・報酬を増やす。
- ・ポイント制導入(清掃ボランティア等)
- ・仕事の内容によって役職を決めていく。
- ・町内の役職を見直す。
- ・何か一つ加入してもらおう。
- ・コミュニティを越える助け合いをする(町を越える、小学校区を越える)。

山田良美、武井秀一、田島護、角田好夫 班

1. 団体活動をめぐる課題等の発表から、特に印象に残ったこと  
気づいたこと

- ・改善すべきことを会全体で共有しているか
- ・人員不足
- ・ポンプ操法協議会なぜ?
- ・民生委員児童委員のなり手不足

2. 地域コミュニティ、各種団体の現状・・・

想定される影響は何か  
地域(住民)として、困ること  
できなくなること  
あればこそできること

- ・区議員の人数、人選(人選は適正であるか)
- ・評議会(規約により、学校・幼稚園と縁のない人が選出される)
- ・青少年団体(やらなくても、すぐに影響はない。十年後、二十年後に影響があるかも。)
- ・戦没者遺族の会
- ・街頭補導(子どもたちの様子を垣間見ることができるが、なぜ市内だけ?)
- ・行政区の見直しをしないと、機能しなくなる。
- ・何でも子どもたちの機会がなくなっていく。
- ・火事の時消す人がいないと困る。

3. 地域コミュニティ、各種団体の現状に対して

どのような対策・工夫がありうるか  
各種団体の課題を乗り越える  
できなくなることを改善するために  
その他

- ・役の年齢制限を見直す。
- ・様々な年齢制限をなくす。
- ・役の活動内容、必要性を理解してもらい、協力を仰ぐ。
- ・参加したくなる、魅力ある団体にする。
- ・「やること」「やれること」「やらなければならないこと」自分にできることに参加してもらう。
- ・家族全員で考える(代表者に任せきりにならない)。
- ・役が必要かどうか、町民に確認。話し合いでなくても、アンケートでも良いのでは。
- ・行政区の考え方を整える。
- ・声を聞く、声を届ける仕組み

田中耕太郎、信澤毅、織田澤清子、伊藤智康 班

1. 団体活動をめぐる課題等の発表から、特に印象に残ったこと  
気づいたこと

- ・民生委員児童委員（少しの活動費、交通費で…。メンタル(精神的)に負担のある役割をしている。気持ち(感謝!))
- ・(社会的)孤立の対応
- ・コロナ禍

2. 地域コミュニティ、各種団体の現状…  
想定される影響は何か  
地域(住民)として、困ること  
できなくなること  
あればこそできること

- ・育成会(その町に子どもがいなくても必要?)
- ・育成会(子どもたちの行事のリーダー)
- ・民生委員(役のなり手がいないと誰が見守るのか?)
- ・民生委員の年齢のアップ
- ・民生委員のなり手不足のため、活動費の増額。
- ・区長(人口が減り、役のなり手がいないとその町は誰に相談する?)
- ・区長会(地域のまとめ役として)
- ・地域の自治会(色々な行動や活動のグループとして)
- ・町の役職に就く家庭が減っていると、現在の〇〇町△△地区を統合する必要がある。
- ・消防団(どんど焼き、花火大会など見守りはできないのか?)
- ・町の人口が減り、山車の運行等ができなくなる。
- ・祭りの世話人(地域の祭りのまとめ役)

3. 地域コミュニティ、各種団体の現状に対して

どのような対策・工夫がありうるか

各種団体の課題を乗り越える

できなくなることを改善するために

その他

- ・色々な垣根(町など)を取り払う取組み
- ・年齢を超えて活躍できる人が集まる仕組み
- ・世代を超えた共有
- ・自分から率先して活動してみる。
- ・役割を受けてみる。
- ・近くの団体、地域とまとまる(つながる)。
- ・昔みたいな近所付き合い
- ・若い人の意見を聞く。
- ・必要な活動には、活動費をちゃんと支払う。

左部ゆかり、地野裕一、中村一喜、大嶋康 班

1. 団体活動をめぐる課題等の発表から、特に印象に残ったこと  
気づいたこと

- ・やっぱり担い手が足りない(高齢化も)
- ・人口減少による今後の組織のあり方?
- ・なり手不足!
- ・後継者不足

2. 地域コミュニティ、各種団体の現状・・・

想定される影響は何か  
地域(住民)として、困ること  
できなくなること  
あればこそできること

- ・消防団のなり手がいないと、火事の時などかけつけられなくなる。
- ・特に消防団に入るとは、気持ちがないと入れない。
- ・消防団
- ・初期消火
- ・初期消火もできなくなる。
- ・災害時の互助
- ・災害が起きても助けられない。
- ・一人暮らしの高齢者を支えられない。
- ・一人暮らしの老人の安否がわからない。
- ・高齢者への今後の対応
- ・高齢者が高齢者を見守るのは、負担が大きすぎる。
- ・見守り活動
- ・子どもの見守りができない。
- ・子どもがいなくなっても探せない。
- ・ボランティアの人手がないと、市の大きなイベントが大変になる。
- ・悩み相談所
- ・相談できる人がいない。誰に相談していいかわからない。
- ・地域や他業種の人とのつながり
- ・地域がつまらなくなる。
- ・沼田祭り
- ・地域の祭り(伝統)が続けられない。
- ・地域の歴史を伝えられない。
- ・体育、競技の縮小



3. 地域コミュニティ、各種団体の現状に対して

どのような対策・工夫がありうるか

各種団体の課題を乗り越える

できなくなることを改善するために

その他

- ・高齢者の定義を変える。
- ・年齢制限なしで、やれる人がやる(元気があるじいちゃん、ばあちゃん)。
- ・ベテランに頼るのも一考？
- ・相談できる窓口を増やす。いっぱい作る。
- ・コミュニケーションの取り方。IT、スマホの活用。
- ・あいさつ
- ・地域の若い人の集まりを増やす。
- ・地域の中心的な組織
- ・メリット、待遇の改善
- ・もうかる地域をつくる。
- ・お金をたくさん支払うビジネスにする。
- ・お祭りなどは、沼田住民ではない人いっぱい声をかける。
- ・色々な団体で横のつながりをする。
- ・ドローンの活用